

【学力向上フロンティアスクール用中間報告書様式】(中学校用)

| | |
|-------|-------|
| 都道府県名 | 山 口 県 |
|-------|-------|

学校の概要(平成15年4月現在)

| | | | | | | |
|-----|-----------|-----|-----|------|-----|-----|
| 学校名 | 山陽町立厚狭中学校 | | | | | |
| 学 年 | 1 年 | 2 年 | 3 年 | 特殊学級 | 計 | 教員数 |
| 学級数 | 4 | 4 | 4 | 1 | 13 | 23 |
| 生徒数 | 131 | 142 | 147 | 2 | 422 | |

研究の概要

1. 研究主題

| |
|--|
| 生徒一人一人の生きる力を育む実践的研究 ~確かな学力の向上をめざして~ |
|--|

2. 研究内容と方法

(1) 実施学年・教科

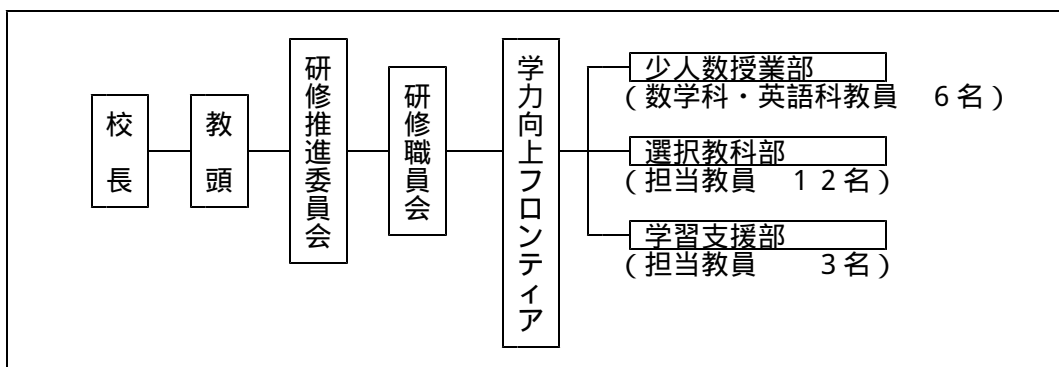
| |
|---|
| <ul style="list-style-type: none"> ・ 1年生・数学 生徒の理解の状況に差が出やすい教科であり、小学校時代の学習のつまずきがあるため。 ・ 1年生・英語 中学校入学後初めて履修する教科なので、学力の定着を図るため。 ・ 2年生・数学 生徒の理解の状況に差が出やすい教科、学年であるため。 ・ 2年生・英語 生徒の理解の状況に差が出やすい教科、学年であるため。 ・ 選択教科 選択履修幅の拡大に伴い、生徒の理解の程度に応じて補充的及び発展的学習または課題別学習を実施するため。 |
|---|

(2) 年次ごとの計画

| | |
|--------|---|
| 平成15年度 | <p>テーマ 教員集団の共通理解を図ることや、研究組織に分かれての課題の焦点化及び生徒の現状を把握し、指導方法・指導体制の工夫改善を行う。</p> <p>研究の見通し(仮説) 各研究部で、生徒の実態を把握し学力向上に向けた課題を発見し、それを解決していくためにはどのような取組を行っていくかを全校体制で研究していく。また、実際の授業では、各教科でわかる授業を展開し、生徒にわかる喜びを実感させたい。そしてその過程で学ぶ意欲、思考力、判断力、表現力などを育ていながら、一人一人の個性に応じて生徒の学力をより伸ばしていきたい。</p> <p>研究の内容・方法 3つの研究部に分かれての実践的研究を行う。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 少人数授業部 数学科・英語科における少人数授業などきめ細かな指導の工夫改善について研究を深める。 ・ 選択教科部 選択教科履修幅の拡大に伴う個に応じた補充的及び発展的学習の指導の工夫改善についての研究を深める。 ・ 学習支援部 生徒や保護者の実態を把握した上で、学習意欲を喚起させる方法について研究を深める。また、本研究の成果の普及のための方策の検討を行う。 |
|--------|---|

| | |
|--------|---|
| 平成16年度 | <p>テーマ 研究組織に分かれての課題解決への取組及び2年間の研究のまとめ</p> <p>研究の見通し 一年次の研究を、各部会ごとに補充・深化していきながら、より実践的なものとし、授業の中で生徒の学力が定着・向上していくように研究・指導を進めていきたい。</p> <p>研究の内容・方法 3つの研究部に分かれての実践的研究を行う。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・少人数授業部 数学科・英語科での習熟度別少人数授業でグループ編成や指導方法及び教材教具などの工夫改善について、一年次の課題をもとに研究を深める。 ・選択教科部 選択教科の履修方法や個に応じた補充的及び発展的学習の指導方法や教材教具などの工夫改善についての研究を深める。 ・学習支援部 生徒や保護者の実態を把握した上で、学習意欲を喚起させる方法や学習環境・生活環境の改善について研究を深める。また、本研究の成果の普及のための方策の検討を行う。 |
|--------|---|

(3) 研究推進体制



平成15年度の研究成果及び今後の課題

1. 研究成果

| |
|--|
| <p>少人数授業</p> <ul style="list-style-type: none"> ・多くの生徒が授業は「よくわかる」、「わかる」と感じている。また、少人数授業できめ細かな指導を行うことで、山口県中学校教育研究会教科部会による山口県共通テスト（英語）では、少人数授業を行っていない近隣校と比べ、平均8点前後高得点をとることができた。 ・前期には全体の約25%が「授業にあまりついていけない」、「全然ついていけない」と感じていたが、後期にはできるだけ充実コースの選択を薦め、復習コースの人数を10名程度に絞った結果、より個々の生徒に合った授業展開が可能となり、「授業についていけない」と感じる生徒は12%に減少した。 <p>選択教科</p> <ul style="list-style-type: none"> ・選択教科の補充的学習を選択した生徒の57%が基礎学力が身に付いたと答えており、課題別学習を選択した生徒の88%が基礎学力や意欲的に学習に取り組んだと答えており、学習効果はあったと感じている。 |
|--|

2. 今後の課題

| |
|--|
| <p>少人数授業</p> <ul style="list-style-type: none"> ・コース分けを、初めは生徒選択を優先させて行ったために、基礎充実コースの人数が多くなり、支援の必要な生徒に十分な指導ができなかった。また、生徒の学力差が大きく1学級を2コースに分けた少人数授業では対応できな |
|--|

いので、2学級を3グループに分けた少人数授業を検討していきたい。

- ・コース分けにより微妙に進度差が生じ、定期テスト等の前に遅れている方に合わせたため、年間計画より進度が遅れがちである。主に基礎充実コースは、遅れることが多かったので、学習内容をさらに精選する必要がある。

選択教科

- ・コース開設に関して、今年度は、前年度を引き継いだことで、「基礎補充」および「発展的学習」を全生徒が受講せざるを得なかった、という問題が残る。「選択教科」の特性を考えた場合、第一希望のコースを受講できなかった生徒が不完全燃焼で過ごしたであろうことは、17%の生徒が「効果なし」と感じていることに現れている。つまり、「生徒が意欲的に学ぶ場」としての選択教科にまだなりえていない。
- ・平成16年度は、開設コース数を増やすことなく、同一時間内に「基礎補充」「発展的学習」を混在させ、より生徒の興味・関心に沿えるようなコース開設をめざすことが第一の課題であると考えます。
- ・生徒側にも、自分の克服課題をしっかりと見極める姿勢を持たせ、自分にあったコース選択を促すガイダンスもしっかり行わなければならない。

学力把握のための学校としての取組

- ・各領域の確認テスト
各領域の最初の時間にテストを行い、少人数指導のコース分けの資料とする。内容については、既習内容から基礎的な知識と表現方法を問うもので、発展的なものは扱わない。
- ・学習に関するアンケート（対象全校生徒）
生徒の学習に対する意識や生活習慣に関する調査
実施時期年2回（10月・1月）
- ・授業に関するアンケート（対象全校生徒）
生徒による授業評価、実施時期年1回（10月）
- ・保護者への学習に関するアンケート（対象1・2年生保護者）
保護者への生徒や学校の取組に対する意識調査
実施時期年1回（12月）

フロンティアスクールとしての研究成果の普及

- ・厚狭管内地区協議会（平成16年2月3日）
- ・研究集録の作成・配布（平成15年度末に中間発表、平成16年度末にまとめ）
- ・研究発表会（平成17年2月の予定）
- ・ホームページの公開（平成17年度末の予定）

次の項目ごとに、該当する箇所をチェックすること。（複数チェック可）

- 【新規校・継続校】 15年度からの新規校 14年度からの継続校
- 【学校規模】 3学級以下 4～6学級
 7～9学級 10～12学級
 13～15学級 16学級以上
- 【指導体制】 少人数指導 T・Tによる指導
 その他
- 【研究教科】 国語 社会 数学 理科
 外国語 音楽 美術 技術・家庭
 保健体育 その他
- 【指導方法の工夫改善に関わる加配の有無】 有 無